

第10回丘珠空港機能強化検討会 議事概要

日 時：令和8年2月13日（金）11：00～11：50
場 所：TKPガーデンシティ札幌駅前 ホール3C
出席者：委員19名、札幌市（事務局）4名

1 開会

(1) 挨拶（札幌市 稲垣都市計画担当局長）

- ・今年度、国土交通省の予算に滑走路の延長に関する調査費が計上され、北海道開発局と東京航空局が主体となって、パブリック・インボルブメント（PI）や環境アセスメントの手続きが現在進められており、11月20日から1月20日までの2カ月間で行われた住民説明会や意見募集で寄せられたご意見について、現在、取りまとめが行われている。
- ・札幌市も住民説明会等に参加させていただき、空港の機能強化の早期実現を期待するご意見や空港へのアクセスの改善、ターミナルビルの機能強化、さらには騒音の影響といった様々なご意見を直接伺った。
- ・これらのご意見に関する機能強化策は、まさにこの検討会で議論している論点そのものであり、札幌市としてもターミナルビルの混雑緩和に向けたAIを活用した研究、アクセスの強化を見据えたタクシー配車の実証実験、さらにはターミナル施設の運営手法など、さまざまな検討を重ねてきた。
- ・札幌市としては、引き続きこうした取組を着実に進め、目標としている滑走路延長の2030年の供用開始に合わせて必要な機能強化が図られるよう、皆様と連携して取り組んでいきたい。

2 議事

(1) 時間軸・優先度で整理した課題・対応の方向性の検討・取組状況

- ・「今後の増便への対応」について、札幌市立大学、札幌丘珠空港ビル株式会社と札幌市の三者共同でAIを活用した調査研究を行っており、それぞれの場所での滞留時間を分析することで、混雑のボトルネックを特定し、最適な施設配置や人員配置の提案につなげたい。また、この研究成果については、現ターミナルビルのレイアウトの改善だけではなく、ターミナルビル拡張時の設計にも反映させていきたい。
- ・ターミナルビルの混雑緩和について、1階のカウンター前のX線検査機を移設し、ロビーを広げる工事をし、今年1月24日から運用がスタートしている。
- ・これに伴い、1階にあった交番は2階に移動し、そのスペースはセルフチェックイン機のエリアとして利用されており、ロビーが広がったことで、夏場の繁忙期でもお客様の滞留が緩和できるのではないかと考えている。
- ・「空港ターミナル地区機能強化」について、現在、札幌丘珠空港ビル株式会社によりターミナルビル拡張に係る基本計画の策定が進められており、新ターミナルビルの建設敷地については、現在のビル敷地だけではなく、隣接する東京航空局丘珠空港事務所、さらに隣の伊藤組の敷地も活用する方向で、国や関係者との調整を行っている。
- ・札幌市は札幌丘珠空港ビル株式会社の筆頭株主として、同社の運営手法や資金計画の調査を進めているところであるが、物販や広告などによる収益力向上策も含め、持続可能な空港運営に向けた検討を深めていきたい。
- ・「2次交通に対する検討」のうち、丘珠空港の交通アクセスについては、慢性的な駐車場の混雑や路線バスの縮小といった課題のほか、タクシーも冬期間や夕方以降は不在になるという課題があり、これらに対応するために2つの実証実験を行った。
- ・実証実験の1つ目は、空港の構内に予約タクシー専用乗り場を新設し、合わせて配車アプリ「GO」の利用制限を解除する取組で、今後のスムーズな配車検証につなげていきたい。
- ・実証実験の2つ目は、冬期間の配車需要調査で、約2カ月間調査用車両を常時空港に配車し、ドライバーや利用者へのアンケート調査を通じて目的地や待ち時間などのデータを収集しており、その結果をもとに、今後の利用者満足度の向上につながる取組を検討していきたい。

- ・ 慢性的な駐車場不足に対応するため、繁忙期に該当する7月中旬から約3カ月間にわたり、空港の敷地外にある札幌市有地に無料の臨時駐車場を開設し、効果を検証した。特に需要が高まる8～9月にかけては、1日20台弱の利用があり、満車時間は減少していることから、臨時駐車場が一定の混雑緩和につながったと考えている。
- ・ 平面駐車場に関しては、令和8年度に一部拡張を行う予定であり、最終的には60台程度の駐車場を増設する計画で進めている。
- ・ 地下鉄とバスの乗り換え改善策について、地下鉄栄町駅から空港連絡バス乗り場、交通広場に行くまでがわかりにくいというご意見を受け、昨年6月に、栄町駅の地下鉄二番出口付近の歩道から、バス乗り場へ誘導する路面表示を設置したことに加え、飛行機型のマークを路面に表示することで、初めての方でも直感的にバス乗り場へ向かえるような工夫を行った。
- ・ 全市的な交通体系のあり方とは少し異なる視点で、積雪寒冷地の都市型空港としてふさわしい公共交通の形というものがあるのではないかと考える。
- ・ 除雪機材の更新について、融雪剤散布体制の強化として昨年10月に新たな散布車を導入した。
- ・ 引き続き、除雪体制の強化のほか、除雪時間の短縮などについても協力していきたい。
- ・ P Iについては、中間取りまとめを今年1月14日に公表しており、道内外よりいただいた831件の意見のうち、丘珠空港の機能強化の必要性については、9割を超える方々から「必要」という意見をいただいている。
- ・ P Iの手続きの中で多様な意見をいただいているが、こうしたプロセスを経て、丁寧に合意形成を進めていくことが非常に重要である。
- ・ 今年度末に向けP Iの最終取りまとめを行った上で、施設計画の決定に向けた取組を進めていく予定である。
- ・ 環境アセスメントについては、計画段階である環境配慮書を昨年11月12日に公表し、現在は提出された意見に対して事業者としての見解を整理中であり、配慮書の手続きを終え次第、方法書の手続きに入っていく予定である。
- ・ 騒音について、P Iの住民説明会等を通じ、改めて地域住民の騒音に対する関心の高さを認識し、札幌市としては、地域住民から寄せられたご意見を踏まえながら、今後の騒音調査手法について検討していく。
- ・ 新千歳空港では国内線にもかなりのインバウンドが乗ってきている状況であり、丘珠との連携のもと、道内路線をうまく活用しながら、インバウンドの旅客に道内の隅々まで観光していただく施策を引き続き強化していきたい。

(2) その他

- ・ これから滑走路延長に向けて、更なる課題に対してどう解決、対応していくのかが大きなテーマになってくるため、引き続き関係者の皆様と情報共有を行いながら、同じ方向感で丘珠空港の発展に向けて推進をお願いしたい。
- ・ 滑走路延長の事業化に向けて、国が主体となってP Iや環境アセスメントに取り組んでいただいているところであるが、札幌市としても皆様と協議を行いながら、丘珠空港の機能強化にしっかりと取り組んでいきたい。

以上